

「正義」と「信頼」の 学校づくりを目指して

～学校が生き生きと躍動するための
教育委員会のあり方を求めて～

地域の
特色ある
活動

岩手県滝沢市教育委員会

1 日本一の村から滝沢市へ

本市は、県都盛岡市に隣接し、盛岡市のベッドタウンとして発展してきた人口5.5万人の日本一人口の多い村から、平成26年1月に単独で市制に移行し、滝沢市となりました。

毎年6月の第2土曜日、大小の鈴をつけた100頭余りの馬が、本市の鬼越蒼前神社にお参りした後、岩手山を背景に行進する「チャグチャグ馬コ」の鈴の音は、初夏を告げる風物詩として親しまれ、「残したい『日本の音風景100選』」にも選出されています。

現在では、2つの大学、試験研究機関等が集積し、本県における研究学園都市を形成するとともに、民間宅地開発が進み、人口が増加しています。

県内1位2位の規模であった滝沢小学校（児童数970人）及び鶯飼小学校（児童数930人）の児童数が1,900人まで膨れ上がり、平成31年4月、2校の中間地点に滝沢中央小学校（児童数600人）を開校しました。



過大規模校解消のために開校した滝沢中央小学校

2 「正義」が通る学校づくりを目指して

滝沢市誕生にあわせて市民憲章を制定するとともに、「学校生活にとって最も大切なことは、子供たちが安心して、生き生きと生活が送られるような学校・学級づくりをすることであり、そのためには、正しいことが正しいと堂々と言える『正義』が通る学校づくりが大切である」との信念のもと、滝沢市の目指す学校像として、「正義と信頼」の学校を掲げ、市内小中学校の全教室にポスターを掲示しています。



滝沢市民憲章と滝沢市の教育のポスター

3 子供たちに浸透していく「正義」

「正義」が通る学校は、子供たち自身に正義の心が生まれることが大切であることから、本市では、地域課題や教育課題を解決するため「ジュニアリーダーズセミナー」を開催し、中学生が自分たちの手で何ができるか議論し、市内全中学生共通の「指標」となる「滝沢市中学生情報モラル宣言」を考えました。

議論の中では、「『思いやり』とは、具体的にどのような行動を指すのか」「スマホの使用時間をはっきり示した方がよいのではないか」等の意見が出されるなど、子供たちの中に正義の心が浸透していることを窺い知ることができました。

4 発達障がいに対する理解

本市では、平成29年度の全国都市教育長協議会定期総会における大阪府富田林市の実践を参考に、市校長会とともに、「発達障がいに関する説明スライド」を作成しました。

このスライドを市内全小学校で毎年2月に開催される「新入生保護者説明会」で上映し、各校特別支援教育コーディネーター等による説明を行っています。

発達障がいの子をもつ保護者からは、「学校がみんなで支える必要があるとの先生からの説明を聞き、感謝しています」という感想が寄せられています。



新入生保護者説明会での発達障がいに係る説明

5 働き方改革を通知票改革から

教員の働き方改革は、喫緊の課題であり、教育の本質を見極めながら、確実に進めていかなければなりません。

市校長会では、児童生徒の学習状況を保護者にどのように伝えていくべきか議論を重ね、通知票の所見欄を廃止し、各教科における具体的な評価事項を示した通知票の作成に取り組みました。この通知票は、具体的な評価事項が示されているため、保護者への説明責任を果たすとともに、所見欄をなくしたことで教員の働き方改革にもつながっています。

子供たちのより具体的な頑張りについては、学期ごとに年3回の面談の中で、保護者に直接伝えていきます。

6 市内大学生の教育支援

本市では、市内にある2つの大学の教員養成課程の、のべ1,000人の学生が、市内の小中学校の授業や行事のサポートを行う「ラーニング・サポーター・プロジェクト事業」を実施しています。

受け入れ側の小中学校からは、「行事の準備や体験学習の支援に感謝している」、大学からも「教員を目指す学生にとって、貴重な経験の機会を頂いており、感謝している」との評価をいただいています。

本県の小学校教員採用者は、市内の大学出身者が、ここ数年トップの採用数となっており、本市の学校にとっても、大学にとっても有益な事業になっています。

7 真の地域力に支えられながら

これまで学校では、学校評議員制度等を導入し地域に開かれた学校づくりを推進してきましたが、一方で、学校への支援としながらも学校を評価する側面が色濃く出てしまうことで、本来あるべき学校の応援団としての機能が十分に発揮できない状況もありました。

本市では、岩手県が昭和40年から独自に展開している地域運動である「教育振興運動」こそ、コミュニティー・スクールの考えと一致していると捉え、全小中学校毎に「学校教育振興協議会」を設置しています。

協議会のメンバーは、学校の応援団として日頃から活動している自治会、スクールガード、図書ボランティア、郷土芸能指導者など15~20名で構成し、真の学校応援団として活動を行っています。

8 子供の活躍を讃え、「信頼」される学校へ



児童生徒の活躍を讃える市長・教育長報告会

「正義」が通る学校の実現に当たっては、教員が、児童生徒、保護者、地域から「信頼」されることが必要であり、教員と児童生徒、教員と保護者が互いに信頼し合い、地域と一緒にあって取り組むことが大切です。

本市では、これまで、全国中学校総合体育大会で優勝している男子新体操部やスケート競技の生徒を輩出しており、子供たちの活躍を讃えるための市長・教育長への報告会を年4回実施しています。このことにより、教員の頑張りも市民の皆さんに理解していただくことになり、「学校の信頼」にもつながっています。



全国中学校総合体育大会優勝競技

これからも、学校と保護者、学校と大学、学校と地域が、ともに手を携え、互いにWin-Winの関係で、「正義」と「信頼」の躍動感に満ちた学校づくりを目指した教育を推進していきたいと考えています。



教育長
熊谷 雅英